

2019 年度

地域の課題解決プロボノプロジェクト

－事例のご紹介－

昭島市自治会連合会

[昭島市]

連合会

構成世帯数
19,000

支援内容 印刷物（活動PR集）

JR 青梅線昭島駅をはさんで南北に広がる昭島市は、21ブロックに分かれて97の自治会があり、各自治会が活発に活動しています。住みやすさに惹かれて比較的若い世帯も増えている中、新しい住民も一緒に、さらに自治会活動を盛り上げていきたいと考えています。

今回のプロジェクトでは、とくに若手ファミリー層に、より積極的に自治会活動へ参加してもらうため、住民の皆さんへのヒアリング調査等を通じ、自治会活動について感じている魅力やメリットを具体的なコメントとして集め、自治会活動の価値の可視化を目指しました。新しいマンションができたときの住民向け説明会や、地域のイベント等で活用できるように、昭島市自治会連合会の“活動PR集”を報告書の形で納品しました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

連合会の皆さんとプロボノチームの顔合わせを実施しました。プロジェクトの目的とゴール、スケジュールを確認しました。

イベント見学、ヒアリング

自治会の運動会を見学し、その際に、住民の方へのヒアリングを実施しました。役員の方からもいろいろお話を伺うことができ大変参考になりました。

中間提案

調査報告をし、最終成果物のイメージのすり合わせをしました。その後、追加ヒアリングも実施しました。

成果提案

プロボノチームから報告を行いました。役員の方から感謝の言葉と、成果物を自治会への積極的な参加につながる情報発信ツールとしてご活用いただけるというコメントをいただきました。



●成果物について

ヒアリングの結果に基づいて地域の住民の方による多彩な活動の中から「運動会、夏祭り、餅つきなどの地域行事」「防災への取り組み」「住民同士のつながり・助け合い」を中心に魅力を紹介し、住民の皆さんのエピソードを交えて構成した活動PR集を納品しました。

加えて、一目で魅力を伝える目的でA4サイズのチラシも制作し提案しました。



上馬西町会

[世田谷区]

構成世帯数
550

支援内容 印刷物(防災活動紹介パンフレット)

上馬西町会は、東急田園都市線三軒茶屋駅と駒沢大学駅の間に位置しています。古くから住んでいる住民の高齢化がある一方、多数の住民が新しい集合住宅や戸建てに転入しています。町内の国道 246 号線、環状 7 号線沿いには集合住宅やビルが、大きな通りから少し入ると戸建ての住宅が密集しています。災害、なかでも、火災の被害が懸念される地域であることから、町会では、特に防災・減災に向けた活動に力を入れたいと考えています。

多くの住民、特に若い世代の住民に、自分事として防災関連の行事へ参加し町会に関心を持ってもらうことを目指して、今回のプロジェクトでは町会の防災活動について、なぜ取り組むのか、何をするのがわかりやすく伝わるパンフレットの制作を行いました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会とプロボノチームとの初顔合わせです。プロジェクトの目的とゴール、スケジュールを確認しました。

ヒアリング

新しい町会員の方、以前に役員だった方、商店会の方、マンションの管理員など様々な属性の方々にヒアリングを実施しました。

中間提案

パンフレットのデザインを複数案提示し、デザイン、テキストなどについてのご意見を伺いました。

成果提案

成果提案を実施しました。中間提案後、デザインを決め、テキストを整えて完成させたパンフレットをお渡ししました。



●成果物について

ヒアリング結果からわかった地域の特徴や魅力を盛り込んだパンフレットを作成しました。今回のテーマである防災という観点から、まず防災イベントに足を運んでもらうことを目的としました。避難場所などを記載することで、保存版資料として、各家庭でいつでも見られるようなパンフレットとなることも目指しました。



桜台親和町会

練馬区

構成世帯数
860

支援内容 マーケティング基礎調査

練馬区桜台2, 3丁目(一部)にある桜台親和町会は、昭和30年以前から活動している町会。長く住む住民の高齢化が進む一方、ファミリー世代を中心とする新しい住民も増えています。新旧の様々な世代の住民同士が顔を合わせる機会を作りたい、と始めた10月の「きずな祭り」が最大のイベントで、防災や防犯活動にも力を入れています。課題は、若手世代の活動への参加を増やし、持続的な町会活動にいくこと。今回のプロジェクトでは、町会活動に対する住民の意識調査を通して、住民の認知度やニーズ、期待、要望などの現状を調査し、その結果をもとに、活動運営の担い手増に向けて効果的と思われる施策を検討しました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会役員5名の皆さんとプロボノチームがそろい「これから目指したい町会の姿」など本質的な確認から今後の調査の具体的な進め方まで大事な部分を共有しました。

活動現場見学

町会で行っている防災イベントを見学・体験しました。

ヒアリング、アンケート調査実施

町会活動についての意識調査として、町会会員、非会員も含めた約20人の住民の方々にプロボノチームが個別インタビューを実施。また、10/12開催のイベント「きずな祭り」でも来場者へのアンケートを実施予定でしたが台風で中止に。町会の各班長を通じて配布・回収した約90通のアンケート集計・分析をチームが行いました。

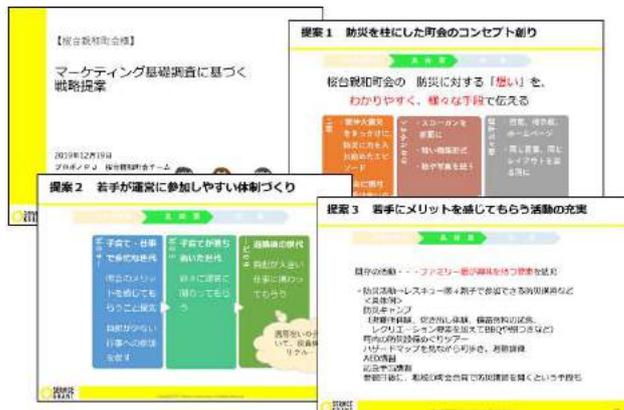
成果提案

これまでの調査報告に加え、今回のプロジェクトテーマである、町会の若手役員や町会員の増加に向けた施策として、プロボノチームから大きく4つを提案しました。



●成果物について

約90通の住民アンケート回答を男女別、世代別などでプロボノチームが分析。回答者の7割以上が町会活動の必要性を感じていることや、各活動に対する認知度なども明らかになりました。個別のインタビュー結果も踏まえ、プロボノチームは今後有効と思われる4つの施策を提案。特に、住民の関心が高い「防災」を柱とした町会活動のコンセプトづくりと、親子で参加できるなど若手世代の参加率を高める工夫を取り入れることに、町会役員の方々からも賛成の声が多く、早速、次年度には親子向けの新たな活動を計画するなど、チーム提案を活かした具体的な施策に着手しています。



千住仲町会(千住南部町会・自治会連合会)

[足立区]

連合会

構成世帯数
9,500

支援メニュー マーケティング基礎調査

足立区南部に位置する「千住南部町会・自治会連合会」は、この地域の9町会が所属。地域の神社の祭礼や盆踊りなどの行事を通じた住民同士の交流活動、地域ぐるみの防災・防犯活動等を積極的に行っていますが、町会・自治会役員の高齢化という共通の課題を抱えています。今回のプロジェクトでは、9町会のうち「千住仲町会」をモデル地区として選定。特に今後活動に参加してほしいファミリー層や退職前後の世代など、住民の町会活動に対する意識や期待を探りながら、将来的な活動の担い手増加に向けた調査プロジェクトを実施します。調査結果と今後の施策案などは、千住仲町会だけでなく連合会全体で共有・活用していく予定です。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会の皆さんから、「千住仲町」の江戸時代からの歴史を伺って理解を深めたり、これから進めていくヒアリング調査の対象者について認識のすり合わせを丁寧に行いました。

現場見学、ヒアリング・アンケート調査実施

12月の町会主催のもちつき大会で町会活動への意識調査アンケートを実施し、目標の80枚を上回る数を回収。分析の結果30%の人が「町会活動に積極的に参加したい」と回答しました。プロボノチームの提案で、「町会活動に協力可能」と回答した数名の方に、早速2月の「豆まき」の告知ポスター貼り協力を町会側から依頼。豆まき当日はプロボノチームに加え町会役員も一緒にアンケート調査に取り組みました。

成果提案

アンケート結果の最終報告と共に、豆まきでの取り組みの結果、新しい協力者が得られたという成果を確認。プロボノチームからは、今後も若手住民への「具体的な依頼」で町会活動への参加を促すことを提案しました。



●成果物について

最終報告を踏まえ、町会役員を中心に12名ほどとプロボノチームで、最後にワークショップを実施。①町会活動への参加者を増やす②役員の後継者獲得の2つの視点で、今後のアクションを検討、町会の皆さんから数十枚の付箋に多くのアイデア・意見が出されました。最終的に、これまで役員と総会出席者のみに配布されていた「年間活動スケジュール」を住民向けに再編集し掲示板に常時貼って周知すること、公共の掲示板に加え自宅の扉などにチラシ・ポスター掲示をしてくれる協力者などを具体的に募っていくことがその場で決まりました。

「もちつき大会」のアンケートの結果4

町会活動に参加したいか？

- 積極的に参加 (30%)
- 協力依頼があれば参加 (46%)
- 興味のあるイベント・活動に参加したい (13%)
- どちらでもない (11%)
- 参加したくない (0%)
- 回答なし (0%)

・ 30%の人が、町会活動に、とても参加したいと回答し、興味あるイベント・活動に参加すると、90%近くの人が

『町会活動 活性化』への最終提言

今回の豆まき大会で、既に、町会活性化に向けて新たなチャレンジをスタートさせています。これを継続して、推進していくには、次の施策をさせていただきます。

□ 町会を活性化するため、町会役員の後継者を育成するには、若手の皆さんに具体的なお願いをして巻き込むことが一番。

1. 次のイベントを決める。
2. 具体的なお願い事項を決める。
3. PDCAを回してみる。

- Plan (依頼内容は詳細、全ての物足りず。)
- Do (そして実行、実施し、おひげは)
- Check (子どもさんや高齢者の方)
- Action (依頼するはいいが、そしてリスト)

□ 今回のプロボノプロジェクトで、千住区長事務所の関係さんが担った役職を町会執行部内に設置(例、町会企画・運用担当者)

□ 町会活動は急ぎのプロジェクトで、無理をすることで進んでしまいます。1歩ずつでも、確実に前に進んでいきましょう。

鷹番 1・2 丁目町会

[目黒区]

構成世帯数
2,900

支援内容 印刷物（冊子型パンフレット）

東急東横線学芸大学駅に近い鷹番 1・2 丁目町会は、現在、世帯数において目黒区で大きな町会の一つです。昭和 8 年に誕生した歴史の長い町会でもあります。いざという時の心強い味方となるよう、地域の身近な問題に取り組み、多世代に向けた活発な活動を進めてきました。今後は多くの町会員が行事等にもっと気軽に参加出来るようにしたいと考えています。

今回のプロジェクトでは、ヒアリング等を通じた調査を実施し、調査結果から浮き彫りとなった町会活動の特色や魅力を伝えるためにパンフレットの形で納品しました。このパンフレットが新しい住民の入会のきっかけにもなり、住民同士の結び付きにつながり、住みよい町づくりに協力したくなるようなものを目指しました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会とプロボノチームとの初顔合わせです。プロジェクトの目的とゴール、スケジュールを確認しました。

ヒアリング、活動現場見学

町会の活動として行っている囲碁将棋サロン、ものづくりカフェ、しゃべり場を分担して見学し、現場見学をしながら、ヒアリングを進めました。

構成案検討

複数の見学を終え、パンフレット構成案を検討し、団体に直接確認いただきました。

成果提案

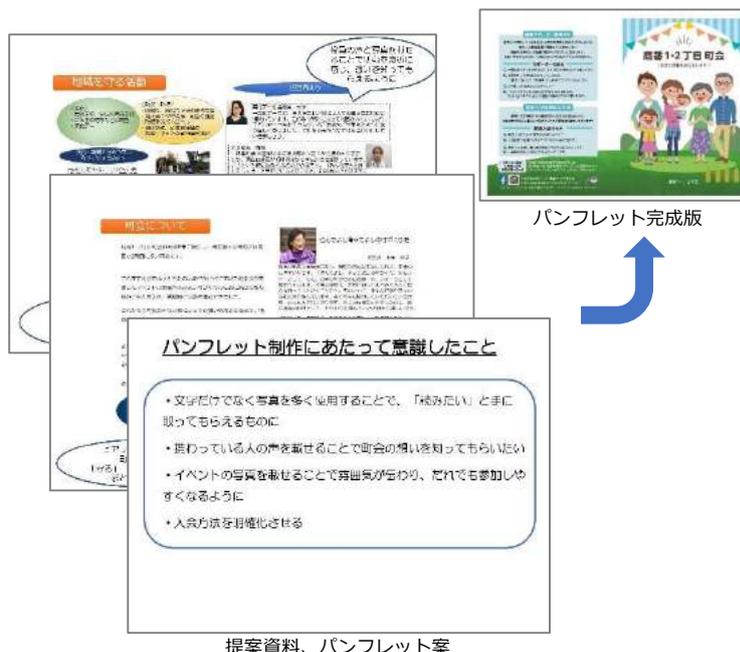
成果提案を実施しました。役員の皆さんからは、「町会の価値がこれで伝わる、今すぐにも配りたい」という声をいただきました。



●成果物について

ヒアリングをもとに、町会活動の価値を「守る」「つなぐ」というキーワードで整理したパンフレット内容をプロボノチームが提案。それを受けて、町会が外部へデザインを直接依頼し、完成品が成果提案の場で披露されました。

このパンフレットの印刷は、町会が東京都の「地域の底力発展事業助成」に申請し、その助成金で行うことになりました。



富ヶ谷町会

[渋谷区]

構成世帯数
1,700

支援メニュー 業務棚卸しと運営改善提案

代々木公園にほど近い富ヶ谷町会は、マンション建設もすすむ一方、古くから戸建てに住む住民も多い地域です。住民同士の顔が見えにくくなりつつある状況の中、ホームページを作成し積極的に情報発信を行ったり、まちの美化活動に取り組むなど、お互いが助けあえる関係性づくりを目指して活動してきました。今後は、ちょっとした手伝いをしてくれる人や日ごろの活動への参加者を増やしていきたいと考えています。一方で、町会の各活動の業務内容は内部でもあまり共有されていないという課題もありました。

今回のプロジェクトでは、これらの課題解決に向けて、町会活動の中でも特に重要な防災にテーマを絞って業務内容の棚卸し・見える化を行い、「どんなことを役員以外の住民に手伝ってもらえるか」という視点での業務や役割の切り出し・整理・提案を行いました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会とプロボノチームとの初顔合わせです。さらなる町の活性化のために今回のプロジェクトのゴールについて確認し、イメージを共有する機会となりました。

ヒアリング、活動現場見学

消防団、若手の方や防災経験豊富な方などにお話を伺いました。また、プロボノチームが防災訓練に参加し、参加者にアンケートやヒアリングを実施しました。

中間提案

ヒアリング、アンケートの結果について報告し、今後の方向性を確認しました。

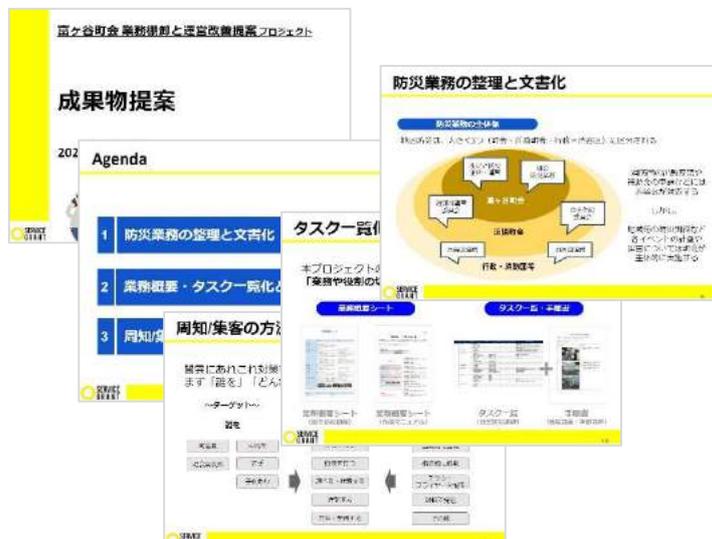
成果提案

防災業務の棚卸し、防災訓練の整理と広報の改善をメインとした提案を実施しました。



●成果物について

ヒアリング、アンケートから得た結果と気づき（情報共有、情報発信、地域交流）について、追加ヒアリングを行いながらチームで議論を深めました。最終的な成果物として、町会の防災業務の棚卸し・見える化を行い、「誰でも、時間をかけず、防災訓練の全体概要を知ることができる」手順書をまとめました。さらに、若手層の参加を促進するために、目的や狙いに応じた周知や集客の方法、それに使用する広報ツールについての提案も行いました。



本町東町会

[渋谷区]

構成世帯数
150

支援内容 印刷物（会報ひな形）

渋谷区の北部に位置する本町には、何世代にもわたり住んでいる方、関東大震災以降から住んでいる世帯、新しいマンションに住まうファミリー層を中心とした住民等がいます。地域住民が交流できるよう、町会の防災会館がある本町公園を中心に、年間を通じて様々な行事を行っています。この地に居を構えた方のつながりをさらに深め、また、新たな参加者を得るためにも、情報発信に力を入れていきたいと考えています。そこで、各家庭へ町会活動の紹介や今後の予定、参加方法などを定期的に伝える会報を新規に発行することを計画しました。

プロジェクトでは、どのような対象者に向けて、どのような内容を届けると効果的か基本方針を整理し、企画を策定したうえで、町会の役員自身が継続して編集・発行可能な会報のひな形及び創刊号を作成しました。



●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会会長、役員とチームメンバーが参加し、キックオフミーティングを行いました。

グループヒアリング実施

町会の関係者にグループヒアリングを実施し、それぞれのニーズを確認しました。

中間提案

多様な世代の会員にヒアリングを実施した結果をまとめ、会報のコンセプトについて合意しました。

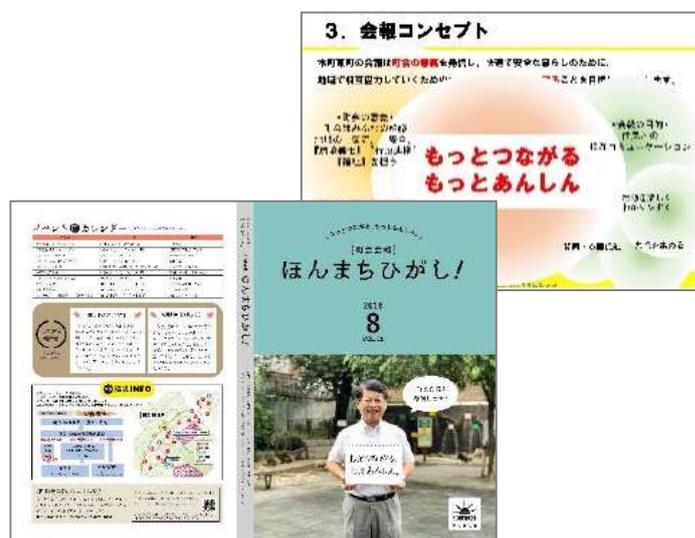
成果提案

中間提案で報告した会報のコンセプトに加えて内容、構成を提案しました。

●成果物について

町会の会報「ほんまちひがし」の創刊号を見本に、第2号からは、役員の皆さんがパワーポイントを使って更新していけるよう、実際にパソコン操作も一緒にしながら方法をお伝えしました。「もっとつながる、もっとあんしん」をキャッチフレーズに、若い世代の会員の皆さんにも親しんで読んでいただけるような会報を、今後継続的に発行していきます。

成果提案の場での町会の方の「すぐ次を作りたくなっちゃった!」という言葉通り、10月に第2号、その後、第3号も作成されています。



南新宿町会

〔渋谷区〕

構成会員数
171*

支援内容 課題整理ワークショップ

新宿駅から徒歩5分。南新宿町会は、南新宿駅やマインズタワー、文化服装学院に囲まれたところにあります。古くから住んでいる住民とマンションの住人、企業等の法人と様々な会員が加入。子どもたちに「まちの思い出を作りたい」と、おもちつき大会や夏のお祭り、花火大会等多数の行事を開催してきました。しかし、高齢化や開発によって社会・住民・住環境が大きく変化するなか、町会はどうあるべきか再考する時期に来ていると考えています。そこで、町会活動の主要メンバー20名と共に「課題整理ワークショップ」を通じた課題の棚卸しと整理を行い、その整理をもとに課題解決に向けた今後のアクションを検討しました。

*構成会員数 171：個人 75+マンション組合 14+企業 82

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会の皆さんとキックオフミーティングをしました。ワークショップ実施に向けた準備などを確認しました。

課題整理ワークショップ

総勢 23 名が参加。町会内での調整、プロボノチームの予行演習といった事前の準備をしたうえで当日に臨み、議論が盛り上がりました。町会の抱える課題をポジティブに捉え、より良い形を目指すにはどうしていくことがいいのか、皆さん真剣に語り合っていました。町会からは「活発な議論（プロセス）だけでなく、新しいアイデア（結果）も得ることができ、大変良かったと思っています。」と感謝の言葉をいただきました。

中間報告会

課題整理ワークショップで抽出された課題は大きく2つあったことを確認し、議論を深めました。

成果提案

課題解決に向けた今後のアクションをプロボノチームから提案しました。



●成果物について

「課題整理ワークショップ」の結果整理と分析をもとに、プロボノチームが検討したアクションプラン案を約 40 ページの「最終報告書」として提案しました。アクションプランは、アおお実施方法や取り組み方法についてもディスカッションを行いました。今後、団体側で個別具体的な施策の優先順位等を検討いただくこととなりました。

